

第4回 社会養護検討部会 議事録

1. 会議名	第4回 出雲市子ども・子育て会議 社会養護検討部会
2. 日時	平成26年(2014)7月22日(火) 9:30~12:00
3. 場所	本庁1階 くにびき大ホール
4. 出席者	<p><委員・専門委員></p> <p>齋藤茂子委員、福代秀洋委員、布野和弘委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、吾郷弘司委員、山本尚樹専門委員</p> <p>(欠席：土江優委員、羽根田紀幸委員、福間泰正委員、堀江正俊委員、山岡清志委員、古川泰道専門委員)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部子育て調整監、福祉推進課長、健康増進課長、子育て支援課、市民活動支援課長、学校教育課長、ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) これまでのご意見について【資料1】</p> <p>2) 量の見込み、及び提供体制の確保の内容とその実施時期について【資料2】</p> <p>3) その他</p> <p>3 閉会</p>
6. 資料	<p>資料1 出雲市のすこやかな子育て支援に関する主な取り組み(社会養護)</p> <p>資料2 ・量の見込み ・提供体制の確保の内容とその実施時期</p>

7. 審議内容

事務局	開会
(あいさつ)	<p>大変ご多忙の中お出かけいただき感謝申し上げます。まず、これまでを振り返ると、昨年度にニーズの把握のための調査を行い、その結果をもとに、事業の必要量の見込みについて検討いただき、年度末には県に報告を提出した。そして、前回5月21日の部会では、社会養護に関してたくさんのご意見をいただいた。本日は、そのご意見を踏まえて、議論が深まればと考えている。また、県に提出した必要量の見込みを最終確認し、修正が必要なものは、それに対してのご意見もいただき、確定をして次の計画に盛り込むよう進めていきたい。この部会も、だいたい大詰めである。もし追加意見がなければ、本日が部会として最後になる。発達部会も、社会養護部会も7月から8月にかけて集中的に審議を行っている。これらを8月末にまとめて、本来の目的である、子ども・子育て支援計画を次の本会に提出する。そして、秋には修正したものをパブリックコメントで住民の皆さんに公表する。タイトなスケジュールである。積み残しがないようにたくさん</p>

	<p>のご意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>本日、堀江委員、羽根田委員、土江委員が欠席。このうち1名の委員からはご意見が提出されている。</p>
部会長	<p>議事に入る前に、今日の部会の進め方を簡単に説明する。議事1は、前回までの部会で頂いた意見を確認していただく。次に議事2で、前回の部会で議論した母子保健3事業以外の事業について、量の見込みや提供体制の確保の内容、その実施時期についてご意見をいただく。</p> <p>最後に、全ての子育てに関する追加・補足する意見等があれば、子ども・子育て支援計画の策定に資するようもれなく積極的に発言いただきたい。</p> <p>議事1について、事務局から願います。</p>
事務局	<p>資料1は、社会養護検討部会での意見を事業に合わせてまとめたものである。それぞれの事業が、虐待のない明るい出雲市の子育て支援であり、切れ目のない支援として図でまとめた。第3回までの部会での意見をまとめたものである。第1回目から、地域とか地域力という言葉が出てきて、実際に各コミュニティセンター単位で実施されている子育てサロン等での参加者同志の役割や横のつながりが孤立防止のために必要だという意見が出た。第2回目では、各事業の量の見込みを協議し、ファミリー・サポート・センターや児童クラブなどについての具体的な意見が出た。3回目では、それまでの意見を踏まえて、各事業をつなぐための情報相談窓口のありかとか、各地域の子育て支援に関する方々の役割とかつなぎ方、事業の活用方法などに関する意見が多く出た。第3回の本会では、保護者の責任や役割とか、子ども会は小学校までで中学校以上は保護者のつながりもなくなるため、それに対する取り組みが何かないかとか、虐待や貧困の連鎖の防止を含めて、思春期の若者や結婚・妊娠する前からの対応を視野に入れた取り組みを考えないといけないのではという意見もあった。地域とか子ども会などの今までの枠組みとは違った考え方で市民の積極的な参加促進や、地域の人材活用を盛り込むような具体的な案を考えて行こうという意見もあった。社会養護検討部会では、虐待防止の観点を最初から示していたせいか、事務局が日々そういう業務を担当しているせいか、現状や課題をまとめる中で、とてもネガティブな表現が多くなり、3回の本会でも、もう少しプラス思考で書いてはどうかとの意見もあった。皆さんの意見を今後事業計画書に記載するに当たってポジティブな表現にしたいので、いろいろな意見を出していただきたい。</p>
部会長	<p>事務局の説明に関し意見はないか。なお、全体を通して補足または追加の意見や、事前に配った意見記入シートも、議事2での量の見込みの決定などの必須事項の後で時間を取る。</p>

	資料2の量の見込み及び提供体制の確保の内容とその実施時期について、部会としての内容を決めたい。事務局から説明を。
事務局	<担当者の説明>
部会長	放課後児童クラブでは、量の見込みの変更があった。また、全ての事業について、提供体制の確保の内容とその実施時期が提示された。
	1の利用者支援への意見はいかがか。
委員1	3ヶ所にコーディネーターを配置となっており、これでよいと思うが、ワンストップ化を想定しておりコーディネーターの役割が広範にわたるため、かなりその方たちの経験や個人的な力が重要である。来た人にとって、ワンストップ化は有効だろう。
事務局	横浜でコンシェルジュという職種がかなり話題になった。ワンストップ窓口として実施されていていい効果が出たということだが、出雲市の場合、本庁ではその役割は果たせるが、全ての方に本庁に来庁いただくことも難しいので、3ヶ所に人を配置し、窓口の職員と本庁が連携を取って新しい情報を共有しサポートしていくよう考えている。
部会長	(2) 時間外保育事業 (3) 放課後児童健全育成事業についてはいかがか。
委員2	保護者負担金が月額7000円と書いてあるが、このほかに教材費やおやつ代として保護者の方に負担いただいている。それをここに書く必要がないのか。次に、文書中の「十歳」との記述は漢数字でよいのか。
事務局	保護者負担金は、七千円と、おやつ代等として千円から三千円までの金額を各運営委員会で徴収しています。保護者に配る資料には、七千円と別途運営面から徴収するおやつ代等があると記載している。ここでは市の事業なので、市の保護者負担金だけを記載しているが、必要であれば別途保護者負担金という記載をすることも可能かと思うので検討させていただく。漢数字は、児童福祉法の表現をそのまま書いているので、ここだけ漢数字でおかしいということであれば、わかりやすいように変えさせていただく。
部会長	(4) 子育て短期支援事業について
委員1	ショートステイは、基本的に現在の体制を継続するということであり、考え方

	<p>として育児不安や虐待の防止に主眼を置いていると記載がある。初め頃の資料等ではレスパイト的、養育支援的などところも含めて利用の範囲が広いのではないか。取り扱いを変えるということはないのか。それと、現在3ヶ所の受け入れ施設で、ニーズが全部カバーできているのか。実施施設を広げることも必要ではないか。</p>
事務局	<p>考え方を変更したところはない。ニーズに関しては、相談があっても、利用料の負担があるため利用されないことが多いが、利用するための手続きである事前見学には行くよう勧めている。25年度の利用者は6人だった。3ヶ所でも受け入れが可能である。施設を増やさなくてもニーズに合っているところなので、このままである。</p>
委員1	<p>実際には、児童相談所の一時保護の利用とかぶっている。一時保護は無料なので、現実的には児童相談所にお願いされるというケースもこれまでいくつかある。当然、虐待とか要保護児童についての関わりということであれば、その棲み分けの中で利用することはあると思うが、支援者がいない方の出産なども含めて、児童相談所ではない、もう少し養育、育児支援に関するようなものもあり、計画に書き込むことではないが、他のサービスのありかたや利用できる施設との連携も含め、児童相談所も含めて課題である。</p>
事務局	<p>児童養護施設とは異なり、委託している保育園は基本的に夜間や時間外は体制が組んでないため、慣れておられないところがある。急な利用は難しく、事前に妊娠出産などで日にちが予定されている場合は、事前に施設見学に行ってもらい、利用を促しているケースがあります。今日又は今夜利用したいという突然の依頼や、病気を持っておられる方などは受け入れができなくて、児童相談所にお願いしたというケースが何件かあったと思います。そういう場合は、なかなか対応ができない。どう改善していくかは課題だろう。</p>
委員1	<p>児童養護施設のある、松江、安来などでは子育てショートステイを行っている。出雲管内に児童養護施設はないので、社会的養護の資源としての里親の活用は、県や社会的養護での課題である。また、性格は異なるが、児童福祉施設として情緒障害児の就労施設がありますので、圏域の社会資源を取り込んでの今後の事業展開があったらと思う。</p>
部会長	<p>課題として追加する方法はあるだろう。</p>
委員4	<p>現在3ヶ所で、民間の事業者に委託されているが、利用が少ないために事業をやめたいと言われることはないか。</p>

事務局	現段階では続けてくださっている。公募によりこの3ヶ所に実施していただいている。毎年、委託契約の更新をしている。
委員 4	利用者が少なく経営的にどうか。
事務局	経営としてあてにしておられるというより、プラスアルファとして受け入れてくださっている。利用希望者の中には、早めに見学に来ていただければ受け入れられたという方もおられる。
委員 3	市の説明では、ニーズは割とあるが料金の問題があつてなかなか利用につながらないとのこと。この事業の役割を果たすためには、量の設定ではないが、料金の設定を変えてみるとか、緩やかな利用方法にするなどの工夫は考えないのか。
事務局	制度開始時は、もっと料金の設定が高かった。相談に来られて高いという方は利用されないが、インフォーマルなサービスが利用できたということがあったりする。どこまで落としていいのかというのは課題である。安易に利用するのを止めたい部分もあつて、難しいところである。本当に頼るところがない方と、自分の趣味に行くために安易に利用してほしくないなというところがある。それらが同じ料金であり、利用しにくい部分になる場合もあるので、いつも迷っている部分である。
委員 3	出産など事前に分かっていることでは利用しやすいと思うが、育児不安とか虐待の防止というところを考えると、保護者の方はぎりぎりのところでがんばっておられるので、緊急でなくてもすぐに使えるようになると、もっと役割を果たせるようになるのではないか。
事務局	育児不安などになると、自分で自ら利用することができないので、事前に保健師が状況を把握していて、前もって準備できている。ただ、そういうかたは、今度は子どもと離れられなかつたりして利用には至ってないが、最後はここが利用できるよと伝えていて、役割は果たせていると思っている。
委員 4	さきほど、料金が高いと言われた。こういうところが行政の弱いところである。どこかとチームを組んだらよい。例えば、自治会に加入者が少ないのであれば、地域の社協から自治協会費として一人 1000 円を出してもらうなど、社協と市のタイアップで減額負担というような考え方はどうだろうか。それによって自治会に加入したらショートステイをもっと利用できるなどのメリットがあるという仕組みづくりはできないだろうか。つまり、区分3の料金では 3000 円かかるところで、行政からは出せないけれども、自治会に入ってくさっている住民なので地区の社協から 1500 円出しましょうということでやれば、個人負担が少なく

	<p>なる。値段的に高いが利用はしたいということであれば自治会に入りましょうという一つのプラスアルファが出てくる。これは考え方であり手法なので、行政の手続き上のこともあるが、商売上からはそのような考え方は出てきてもいいのではないか。他のNPOや青少年に関する団体が、うちは500円プラスしましょうとなると、もっと減額になる。行政でやると大変かもしれないが、地域から子どもや家庭が大事だからもう少し協力しようという考え方が出て、自治会や社協、地域のお金もとなれば、利用者がゼロにはならないだろう。</p>
事務局	<p>ご意見としてありがたい。減額して使いやすくということは当然あると思うが、この事業については、1週間以内とはいえ夜間も含めて親元から小さいお子さんを離すということを、市が子育て支援の推進として利用しやすくするべきだろうか考えると、ご意見としては大変ありがたいが、踏み込みにくいと考えている。この事業については、あくまでも緊急的な措置であるといった捉え方をしていく方がいいのではと現段階では考えている。必要でないわけではないし、全く使えないような事業であれば問題があるが、現段階では一日預けて1万円というあたりをどう捉えるかであり、やむを得ない事情という中でその金額でも利用すると判断していただいていると捉えていきたい。</p>
委員5	<p>個人的な意見だが、なかなか難しいところである。確かに料金的にはその他の世帯の区分では高いという感じはするが、安易な使用が、どんどん広がって、普通の家庭においてもここに預けておけばいいということになってしまうのは、あまりいいことではないと思う。地区社協の補助のようなものも検討課題だと思うが、区分や料金についてはどちらかという致し方ないという感じがしている。</p>
部会長	<p>(5) 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業） (6) 一時預かり事業（在園児対象型を除く）、子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業：病児対応、就学後を除く）、子育て短期支援事業（トワイライトステイ） (7) 病児・病後児保育事業、子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業：病児対応）はいかがか。 これで決定とする。</p> <p>(8) 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業：就学後）はいかがか。</p>
委員1	<p>ファミリーサポート事業そのものの課題であるが、昨年に大阪でファミサポの利用中に子どもさんが亡くなって、刑事、民争も含めて訴訟になっている。当然あってはならないことだが、実際には自宅でのサービス利用となるので、どうしても個人の責任として捉えられるというところがあり、当然保険はあると思う</p>

	<p>が、責任体制のようなものを、事業として作っていく必要があるのではないかと 思っている。また、援助会員数を増やしていくということも触れてあり、数を増 やすということはいいことかもしれないが、質の確保といった研修体制も考えて いかないと、対応が難しくなっていくのではと心配している。うちの家もまかせ て会員に登録しているので、自身の問題としても考えている。以上のことについ て、ファミリーサポートのセンター事業のこれからの課題として考えているの か。</p>
事務局	<p>ファミリーサポート事業は訴訟にもなっている。あくまでも相互の援助活動と いう位置づけだが、市で負担して保険に加入している。それで十分かという問題 もある。</p> <p>国も研修をきちんとするよう通知等を出しており、市でも研修をお願いしてい る。しかし、研修をより詳しく充実させれば、逆にまかせて会員さんが負担に思 われてしまうということもあったりして、今後考えて行くうえで、難しい部分で もあると思っている。今までは、ファミリー・サポート・センター事業は法定化 されていなかったが、27年度からは子ども子育て支援事業の13事業の中で法定 化されており、国の方で研修体制とか事故防止などをより打ち出してくると思わ れる。それにしたがって市でも事故防止に努め、研修活動も充実させていこうと 考えている。</p>
委員6	<p>私はずいぶん前からまかせて会員をやっていて、小さい子どもの保育園への送 迎や小学校の子ども習い事の送迎などで車を利用することがたいへん多く、事 故のことはいつも気にかかっている。お願い会員とまかせて会員のコーディネ ートをファミリー・サポート・センターの職員がされるが、それからあとは、おね がい会員と私たちの信頼関係となる。お母さんたちとは最初に顔合わせをするだ けで、月末に料金の計算をするときにまた会うという感じ。家に子どもを迎えに 行って塾に送る時の子どもたちとまかせて会員との信頼関係とか、親さんたちと の信頼関係とか、こういうところが、このファミリーサポートの主なところかな と思っている。ちょっと距離があると、事故のことも心配で、自分が気を付けな いといけないと絶えず思っている。コーディネートがうまくできないというこ ともよく言われる。おねがい会員は夕方の忙しい時間に保育園に迎えに行っ てほしいとか、塾に送ってほしいと言われるが、まかせて会員も家庭がある。とん でもなく遠くの人をお願いされることもあり、だいたいなら受けるようにしてい るが、ちょうど夕ご飯の準備の時間だったりすると難しいこともある。そんな中 でもファミリーサポート事業を一生懸命やっておられるので協力している。</p>
事務局	<p>なかなか公ではできないことをやっていただいている。皆様の意識も非常に高 く、特に0歳の子どもさんを預かった時などは、子どもが寝ている間じゅう目が 冴えてずっと起きておられるなどということも聞いており、とても知識や経験を</p>

	<p>持っておられる。ただファミリー・サポート・センターでのコーディネートで、こんな案件は受けてもいいかというのは、市に確認していただいております、中にはお受けできないとお答えする件も何割かある。裁判にもなっていて、個人の責任となる判決が出ており、せっかく善意でやっていただいているのに不幸な結末になるのはとんでもないことであるので、皆様と話をしながら安全第一でやっていきたい。</p>
部会長	<p>課題はこのままでよいか。大事な指摘かと思うが。</p>
事務局	<p>研修などを行いながら安全に事業を実施していきたいということと、行政と密接に連携していくということを加えさせていただきたい。</p>
部会長	<p>9、10は本会の方で協議するというものとする。</p> <p>議事1で先送りしていた全体を通した補足または追加のご意見、事前にお配りしたご意見記入シートについて発言いただきたい。</p>
委員4	<p>全体的に思ったのは、さきほども言ったように金額的なことや時間帯。子どもに関する課題は地域の課題である。自治会に参加してもらうために、特色がある魅力ある自治会とするために、実際には1万円近くかかる学童クラブが、自治会に入っていれば自治会からいくら、社協からいくらという支援をしていただいたら、入会してみようかというきっかけになる。時間帯についても、会社や仕事の関係で、定時で迎えに来る親さんはなかなかおられない。電話一本入れることもなかなかできないこともある。その辺は多少の余裕が各児童クラブのサポーターさんもあると思うので、自治協会に入っていると地域の子どもさんなので30分多目に見ますよということも、行政と地域がタイアップして援助できると思う。そういったことによって地域がより明るくなるという方向性が見えてくると思う。保護者の負担を軽減するところは軽減してあげて、厳しくするところは厳しくするなど、メリットを与えてはどうか。次に、先日キャンプに子ども達を連れて行ってきたが、最近思うのは、発達障害やアレルギーなど、いろいろな子どもがいること。他人の子どもを預かるのが本当に難しく、何か起こったらどうしたらいいのかとか、本当に賠償請求されたら困るところがある。また、家庭で子育てをしっかりとしているお母さんお父さんもいらっしゃれば、全く知識レベル的に低い保護者の方もおられる。人間関係において親密性がないと、なかなか親さんにここまで言っているものかどうかという判断が必要になる。我々も地域として活動していく中で、地域でできるものは地域でしてあげたいと思うが、なかなかそれも難しく、その辺をネットワークでいい具合に対応できるような社会養護のシステムができればいいと思っている。また、子どもをよく見ると、いただきます、ごちそうさまという子どももいれば、全く言わない子どもや立つ</p>

て食べる子どももいる。また、ご飯を少しとフルーツサラダだけといった偏った食事をしている、家でもそうなのと聞くと、家でもこんな感じで、野菜ジュースを飲めばいいという子どももいる。親さんは、どういうふうな子育てをしているのかと不思議に感じる人がたくさんある。また、食事が終わって食器を片付けるときに、テーブルが汚れていることにちゃんと気づいてテーブルを布巾で掃除する子もいれば、全く汚したままで行く子どももいるなどさまざま、家庭の力だと思う。合宿で子どもがやっている良い習慣をすごいねと褒めてやるとその子はもっとがんばるし、同じ年齢の子どもに、家でもやることなんだよと教えてやると、自分もやらなければいけないと思うようになる。これは地域でできることである。家では教えてもらえないけれども、地域で見本を見せれば、自分もやらないといけないと気づくので、いろんな事業を通して地域でできることと家庭でやれることが折り合えるようになればいいと思う。

委員 2

この部会で事業について検討し、文章ができあがっているところだが、大事なことはこれからのことである。今やっていることや、これからやるのが、当事者を含めて地域の方に認知してもらえるのかということ、地域の支援に直結する。当事者が知らなかったということが多いような気がしている。また、地域の皆さんに分かってもらう努力をしていかないといけない。せっかくこれだけの協議をして、これだけのデータが出ているので、これを使わない手はない。

数字の表記の問題については、報告書の中では統一した表記をした方が、見る側にとっては見事だと思う。

部会長

もう少し地域のネットワークで、自治協会とも連携してはどうかというご意見をいただいております、具体的にどのように考えていくかというのは大事である。地域の特性もあるだろうし、どうやって連携していくかというところを、さらに深めた形でご意見をいただきたい。それから、当事者の方がいろいろな情報を得られるような、拠点になる機関やいろいろな機会、システムや体制などが必要かと思う。もう少し具体的にご意見をいただきたい。

委員 2

自治会の話になると、とても少々の時間や場では解決できない。わたしも自治会の関係者の一人であり、自治会を作ってもらうための努力は、日頃からしているが、自治会に入っていない方は、集合住宅、マンション、アパートの方がほとんどで、自治会に入っている世帯が40%を切っている。持ち家の方の95～6%が自治会を結成している。民生委員さんや民生児童委員さん、その他の委員さんも、孤軍奮闘に近い状態で、一生懸命やっておられるが実を結ばない。自治会という組織を作りたくない、入りたくないという方が、アパートやマンションにたくさん住んでいる。入っていいことがあるかとよく問われるが、明確に絶対的な答えができない。自治会などはボランティアで動いているため、ボランティアが十分にいて動くことができないと、自治会で住民の問題や課題を解決してあ

<p>部会長</p>	<p>げられますということとは言えない。自治会のことになると、行政を上げての問題になると思う。答えにはなっていないが、難しいということが結論である。</p> <p>いま出雲市では、子ども・子育てに限らず、高齢者や障害者のことについて、どういったエリアでネットワークや体制を作って対応いくかを検討するところに来ている。いろんな計画がたくさんあるが、それを少しずつ一つにしていこうという動きがあり、地域で考えていくなればそれも必要ではないかと思っている。</p>
<p>委員 3</p>	<p>子どもが小学校に上がって通学する時に、地域の方が旗を持って横断歩道に立ってくださっていた。全然かわりのない地域の方たちが、子どもたちのために朝早く、または下校の時間に子どもの見守りをしてくださっており、ありがたいと思った。自分はフルタイムで仕事をしているが、そういう姿を見たのをきっかけに、自分の時間が取れるときには、横断歩道に立って子どもの見守りをしている。これは実際に地域の中で皆さんと一緒に子どもを育ててくださっているということを感じることができたからこそ、自分も行動に移せた。</p>
<p>部会長</p>	<p>地域の見守り隊に、当事者である保護者が一緒に参加してみて、子どもが地域の中での育てられていることを実感されている。子どもたちの命を守るような取り組みは大変大事である。</p>
<p>委員 1</p>	<p>地域の子育て力が下がったため、子育てのサービスを行政で組み立てて施策として打ち出していけないといけないという循環になってきていると思う。特に市街地の場合は、自治会とか地域の集まりが非常に弱くなってきているため、虐待なども含めて問題になってきていると思う。山間部では、自治会組織はあっても子どもが少ないのが現状である。いろいろサービスが乳幼児期からあり、関係の行政職員ばかりではなくボランティアの方を含めてのかかわりができているのを、いかにして地域に戻していくかが大事だと思う。いろいろな事業等で得た情報を、地域の中の支え手の人にもうまく伝えていくという情報のサイクルがないと感じている。具体的には整理できないが、今後の子どもや若者の支援を、地域や行政、またボランティアのような第三者でうまくつながっていくということが必要だろう。</p>
<p>部会長</p>	<p>出雲市ではコミュニティセンター単位又は小学校区単位などで動いていると思うが、きめ細かくしようと思えば、更に小さいエリアでということになるだろう。ほかに地域でというところで何か意見はないか。</p>
<p>委員 6</p>	<p>子育て支援センターに出かける方もたくさんおられるし、あかちゃん声掛け訪問や4か月健診の時に保健師さんから地域に子育て広場があることを知って、出かける方もおられる。出かけたくないというお母さんもおられるが、自分の子ども</p>

もだけではなく、他の同じような子どもが遊ぶ姿を見ると、自分の子どもの成長や他の子どもとの違いに気づきがあったりしている。出かけるように勧めている。だが、なかなか思いが届きにくいお母さんたちも多い。私は子育て支援にかかわっているので娘にいろいろな話をしていたつもりだったが、娘が子ども・子育て支援計画のニーズ調査に取り組む中で、知らないことがずいぶんあるとのことだった。ファミリー・サポート・センターの存在を知らないお母さんも結構おられることについて、子どもが生まれた家庭への周知方法をどのように考えているのか。最近の例でも、父母ともに実家が出雲市外で、父は夜勤が多いため、2番目の子どもが生まれた際には、病院から帰った次の日から母が上の子を保育園に連れて行っていったとのことで、ファミリー・サポート・センターを知られなくて逆に驚きだった。出生届を出した時にもらわれたたくさんのチラシの中や、4か月健診の時に置いてあったチラシの中にはあると思うが、それが目に留まらず、ちゃんと読まずに通っているのではないかと。アンケートなどがあると、サービスがあることの気付きがある。今はやめられたが、4か月健診の時に、あかちゃん声かけ訪問や保健師さんの訪問に関してA4一枚のアンケートがあった。それぞれ読んで書いてこられるので、子育てが始まったお母さんたちに関係があるような情報があるといいと思った。

部会長

情報の問題とか相互ネットの必要性というところだろう。事業が個別ではなく、それぞれがつながっていかないとけない。また、子育て支援している方たちのニーズに即して、必要なサービスや情報を提供できるネットワークができてくるといいと思う。

委員4

我々も地域で情報が入ってくるが、ネットワークで情報が利用できればよいと思っているのは、子どもさんが小さい、引っ越ししてきたばかり、友達もいない、また国際結婚の家庭や、旦那さんと年齢差がある場合など。お母さんは地域のことが絶対わからない。担当地区を回る保健師さんが事前に連絡をして地域のサークルの活動に誘い、もともと参加したい気持ちのあった若いお母さんが参加されて、友達ができ来て良かったのでこれからも来て勉強したいと言われたケースがあった。個人情報は大切なものだが、地域のことをよく知っている行政が家庭や子どもにリンクして、共有すると思う。これから個人情報も厳しくなると思うが、ネットワークをどんどん使って運用していただければ、我々も活動しやすいし、先が見えてくるというか明るい地域になると思う。我々も転居の情報は、近くだと分かるが、校区が広く、特にアパートや団地などは分からない。そういったところは行政の方がいち早く分かっているので、家庭訪問した際に支援が必要だと思われる家庭の情報を、定期的にもらいたい。情報をどこまで出してもらえるか難しいが、我々も守秘義務があり責任を持って活動をしている。家庭訪問するにしても、学校と意見交換するときにも分からないことがあるので、より多くの情報を出してもらおうなど、活動しやすい場づくりも必要だと思ってい

事務局	<p>るのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>地域の中で活動していただく方に、必要な情報を提供することは大切なことだと思っている。個人情報保護法というのは、制限がかかっていることは確かだが、出せる情報は素早く出していく。個人情報の保護については慎重に検討しないといけないが、法律の趣旨をはき違えないように、きちんと検討していきたい。地域で活躍している皆様が活動しにくいということがないように、できるだけ努力していきたい。</p>
委員 4	<p>分かりづらくて苦勞するのは高校中退者である。高校になると義務教育ではないので、自分の地域の子どもがどの高校に行ったか完璧にわかるわけではない。地域の人から、最近あの高校生がずっと家にいると聞いて初めて情報が入り、高校に聞いたら中退したと分かるなど、行って聞かないと分からない。そういう高校中退者は正規の仕事をしていないことが多い。アルバイトとか夜勤とか、夜の仕事とかでも就勞していたらまだいい。不特定多数の、それも年齢層の幅広い男女交際的なことをやっていたり、友達と二人でアパート暮らしをしたりしている。そのような環境は住みよい街ではないのではないかと。よそから来た人が見たら、どうなっているのかと思われるかもしれない。そういったことを現実に見ていると、いくら家庭から何とかしてくれと頼まれても対応が難しい。情報が入りやすいネットワークとか、高校生の学校関係機関といいやり取りができれば助かるのだが。</p>
事務局	<p>義務教育を終わった子どもさんの情報がまとまった情報としてリンクする部分は限られている。市内の中学校で、中高の連携に絡んで情報を交換するような部分はあるが、その中で生徒さんの情報が全部共有できているかというところ、趣旨的なところも異なり、教育指導的なところや生徒指導的なところは話題としてあがるが、中途退学者等の情報が全部流れるわけではない。県の教育委員会が義務教育に関する情報は持っているが、現段階で、出雲市と県とでそれに係る、あるいは市内の中学校とすべての高校がそれに関する定例的な情報を共有する機会があるかというところ、ない状況である。</p>
委員 4	<p>たとえば、中学を卒業して高校に行っていたが、一カ月で行けなくなった例があった。理由を聞いてみると、単位の取り方がわからないということだったので、担当の中学校の先生にフォローしてもらった。たまたま中学校の先生が高校と定期的に交流会か何かがあり、その時に気づいたということだった。対応したらまた高校に行けるようになったということだった。こういった情報があれば、我々も動きやすい。先生が行けなかったら我々が行って説明することもできる。交流会等が各校にあって、定期的に情報が分かれば、子どもや家庭をフォローするために地域や家庭から情報を聞きながら、我々もどこかにつなぐパイプとして機能</p>

<p>部会長</p>	<p>すると思う。そういった子どもさんをいかに少なくするかというためには、各高校の先生方にも、預かった以上は家庭の状況などを中学校にフィードバックしてもらい、地域へも流してもらえると、一人でもそういった子どもさんを救うためのネットワークになるのではないかと。</p> <p>まだ学校に籍がある間は、学校で責任を持たれると思うが、中退となるとなかなか難しいと思われる。大事なご意見ということで伺っておきたい。</p> <p>商工会の方がご欠席である。ワークライフバランスというお母さんとかお父さんお仕事の話も聞ければよかった。</p> <p>もう少し計画をポジティブに、将来展望を持って明るい表現でという意見があったがいかがか。暗くならないようにというところで。</p>
<p>委員 5</p>	<p>暗くならないようにというところに直接関係があるか分からないが、これだけの支援をして、子どもさんをきちんと社会で育てていこう、フォローしていこうというのはいいことで、それ自体はポジティブに捉えないといけないと思うが、社会の状況がどちらかという、自分の権利を主張することが非常に強くなり、ボランティアなどに対する理解が足りないと思う。そういったところの広報や啓発をしていって、利用した時に皆さんが感謝されるようになればいいと思う。地域の活動にも言えることだが、義務を果たしたくないとか、入ればいろんなことをしないといけないというのが先に立つのかもしれないが、このままでは安心して安全に暮らせる地域というものが、どんどんなくなっていくと感じている。地域の活動などやめてしまえという意見がずいぶん出ているが、その意義、あるいはがんばっていただいた方のおかげでコミュニティができており、それが無くなることにはリスクがあるということも含めてお話をし、お願いをして何とか組織を持続させているというところもある。そういったことを含めて啓発活動に力を入れていただけたらいいと思う。それぞれが温かい気持ちになり、感謝の気持ちを持ち合うことができていけば、気持ちよく前向きに事業が進んでいくと思うが、なかなか現場はそうはいかない。啓発活動によって、ある程度皆さん方のコンセンサスとして、行政あるいは地域のボランティアの皆さんにがんばってもらっているのだからという空気があれば、全然違ってくるのではと思う。恩着せがましくなるといけないが、広報活動や啓発活動を効果的にあわせてやっていただきたい。制度の説明もいいが、背景も含めてわかってもらえるように力をいれていくことにより、保護者の方や、10年後20年後に出雲市を支えてくださる子どもさん方が、やっぱり地域は大切だなと思っていただけるかもしれないので、教育現場でも広報啓発をやっていただければと思う。</p>
<p>部会長</p>	<p>市の広報誌に地域の紹介があってもいいと思う。我々も他の地域のことは分か</p>

<p>委員 4</p>	<p>らないことがたくさんある。</p> <p>私はいろいろな地区に行くので、そこの掲示板を見る。</p> <p>町内会の広報誌やいろいろな宣伝があるので、持って帰って地区で提案している。自治協会の会員を増やす取り組みなどを、住民にもっとPRさせるためには、市が積極的に発信してあげると、見る人は見ている。サポートセンターに行くと子育てのカレンダーがあり、地区によって参加費用が全然違うことがわかる。高いところはものすごく高いが、安いところはどこから予算を捻出しているのかと思うくらいである。そういうところは自治協会などから支援があるようだ。行政の側から地域の特色をPRしてもらおうと、おのおの競い合い、自治会に入りやすい組織作りとか、PRや宣伝の仕方を地域も勉強する。いいことはどんどんPRしてもらいたいと思うし、自分の町内や地域が市の広報に載ると、自信もつので、うまく相互作用して明るい起爆剤になるようなものを提案してもらえるとよい。</p>
<p>部会長</p>	<p>積極的な広報活動とか、地域からの情報発信という意見をいただいた。市の広報担当や地域づくり・まちづくり担当の方に、子育て支援の側から情報発信していくとよいと思った。</p>
<p>委員 1</p>	<p>暗い明るいという話だが、児童虐待というのは確かにマイナスの部分があるのだが、児童虐待防止というのは裏を返せば子育ての支援ということになるわけで、子どもの将来に向けての養育や幸福を広げることだと思っている。児童虐待は現実には子育てが厳しくなっているなかで、どこでも起こりうるもので、それをしている人は犯罪者ではない。ひどい場合は困るが、基本的には支援を必要としている人と捉えるのが基本だろうと思っている。そういったところで、子育て支援事業の全体に児童虐待が入っていると理解しているので、視点を変えて明るいということにはなかなかかなりにくいですが、多少暗さが少なくなるのではないかと考えている。それと、児童虐待のところだが、実際には児童虐待の担当者だけではやりきれないところがあり、どうしても地域の皆さんや自治会、民生児童委員さんなどの、非常に幅広い支援の中で、虐待予防が進んでいると思う。実際に関わるのは人なので、マンパワーの部分というのはすごく大事である。いま事務局は子育て支援課にあるが、日々尽力されていて大変だと感じている。掛け声やがんばれだけではなかなか大変なので、人がかかわるところにはしっかり人を配置するということも、視点としては必要だということにあらためて触れておきたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>リスクな仕事をしている人達のマンパワーの支援がこれからは大事だと思う。実は最近、大学にも虐待防止のオレンジリボン活動について、厚生労働省の教育機関協議会を通してメールが届いた。大学生というのは、間もなく父親、母</p>

	<p>親になる年齢であるので、オレンジリボン活動を大学でしてくれないかという依頼である。これも大事なことだと思う。できれば出雲市と連携しながら、大学も取り組めたらいいと思っている。いろんな形で知恵を働かせれば、いろんなかわりができると思う。</p> <p>お手元にメモしてこられたことは発言されたか。計画に盛り込んでいただくので是非どうぞ。</p>
委員 3	<p>ワークライフバランスについて。共働きの親さんもすごく多いが、どうしても、お父さんが正職員で、お母さんがパートというパターンが少なくない。そうすると母親が家事や子育てに関わる時間が父親より多いということになる。ワークライフバランスは正しく理解されにくい部分があるのだが、仕事と生活とバランスよく調整しながら生活していきましょうという考え方である。親が効率よく仕事をするように仕事の見方を変えていくとか、会社の方も努力をして残業を少なくするなどの努力をしていくことである。親が早く家に帰れるようになると、子育てや家事を両親でするようになり、親も心と時間にゆとりができると思う。そうすると地域にもすこし関心が向くようになるのではないかと思う。</p>
部会長	<p>時間や心のゆとりは大切なことである。</p>
委員 2	<p>自治会として 500 世帯ほどの集落のお世話をしたり、児童クラブと関わったりして思っていることは、何かをしていただくという立場ではなくて、分かってあげる、してあげるという立場で動かざるを得ない状況である。そのときに少しづついい考え方かもしれないが、保護者の方の理解なしには将来は開けないと思っている。私が努めてやっていることは、子ども達にいろいろなことを体験してもらう場を作って保護者の方にも一緒に出てもらい、参加してもらうような事業をしっかりと組もうというところである。行政の方で、子ども会活動への支援をされている。私の 500 世帯の中で、自治協会へ加入している方は 50%を切っているが、加入している、していないは関係なくて、とにかく、小学校に行っている子、あるいはもっと小さい子、また中学生を含めて、だれでも参加してもらおうという思いでいろいろな事業を組むことにしている。子ども教室という事業で年間 6 万とか 7 万の補助金をもらって動いているところもある。子どものその日のジュース代で終わってしまう。できればもう少し啓発的なところに使えるような経費が出たらいいと思っている。何をやるにしても決してあきらめないというのが私たちの立場では必要と思っている。</p>
部会長	<p>欠席された委員のご意見を紹介いただけるか。</p>
事務局	<p>1 番目は、子ども・子育てについての保護者負担の軽減、日常生活自立支援等、2 番目は幼保連携型保育園への住民への理解啓発の促進、3 番目は児童虐待不登</p>

委員 4	<p>校児等への声かけについてということです。</p> <p>3 番目の意見は、授業料などが払えなくて子どもがしかたなくやめていく状態があるということだと思う。実際に、両親が仕事をしていないために、一番上の高校生が担任の先生に退学させてくださいと言ったケースがあった。担任の先生がなんでやめるのかと聞くと、家庭の生活が大変で、下の子どもの養育費が賄えないため、自分がやめてアルバイトするとの理由であった。学校の先生が、学校の支援する機構の学費等を免除するという制度を説明し、書類を出させて認められ、辞めずに通っている。他の兄弟も家庭の困窮さの中で、進学から就職に急きょ変更したので、学校も困っていた。最終的には縁故支援によって職に就くことになった。そういう自分が辞めて兄弟のために働くというケースが出雲市内でもぼつぼつと起きている。そのことを言うておられると思う。</p>
部会長	<p>それでは、議事 2 は終わらせていただく。</p> <p>その他について、事務局から願います。</p>
事務局	<p>その他ということで、11 日に社会養護検討部会を仮予定としていたが、今回で一応すべてのご意見をいただいたということで、第 5 回の 8 月 11 日は取りやめとさせていただきます。</p>
部会長	<p>予定していた内容はすべて終わったので、議事を終了する。当部会に与えられた調査審議を要する課題については、今日までにいただいたたくさんの意見を整理し本会に提出する。進行を事務局に返す。</p>
事務局	<p>部会長にお礼を申し上げます。委員の皆様にも長時間に渡りご審議いただきお礼申し上げます。</p> <p>今後、当部会で審議いただいた内容について計画素案を作成し、本会で協議される。その後、この計画素案をパブリックコメントし、11 月には部会での修正案の検討に進んでいくので、その際にご協力をお願いします。</p> <p>また、8 月 23 日に子育て会議を予定しているので、よろしく願います。</p> <p>閉会</p>